春来勝事逐時新 早起風光倍可親 忽見青天垂柳緑 此時愛殺樹辺身

【読み】

春来（きた）りて勝事（しょうじ） 時を逐（お）って新（あら）たなり 早く起きれば風光ますます親（した）しむべし
忽（たちま）ち見る 青天の垂柳（すいりゆう）の緑（みどり）なるを 此（この）時 愛殺（あいさつ）す 樹（き）の辺（ほと）りにある身

【意味】

春が訪れると、目の前に素晴らしい出来事が次々と現れて、新鮮さを感じさせる。朝早く起きれば、風景が一層親しみやすく春にとけあう。ふと見上げた青空に映えて垂れ下がる柳の緑を目にすると、まさにその時、木々のそばにいる自分が心から愛おしく思われた。

*勝事：すばらしい出来事。感動を呼ぶ現象。 *風光：風景 *倍：ますます *愛殺：とても愛おしく思うこと

【出典】 偶成（高攀龍（こうはんりょう）・明）

この詩では、春が来ると普段では味わえないような美しく、感動を呼ぶ現象（「勝事」）が次々と生じ、その一瞬一瞬が新鮮であるという「時の移ろい」と「自然との一体感」、そして結句では「自分自身への愛情」を表現しています。